

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

竹富町西表島での地域材利用

9月25日、26日（木、金）

竹富町役場職員から、西表島にも現在活動している木工組合があるとの情報を聞き、令和7年9月25日、一緒に島東部の上原に位置する「西表木工組合」を訪れ、代表を務める高橋氏に話を伺うことができた（写真 左）。

本組合は、およそ35年前に設立し、当時の林業構造改善事業により施設導入を行っている。高橋氏は約20年前に組合に加入し、先代の跡を継いで2代目の組合長となった。現在は、設立当時のメンバー2名を含めた計8名で活動を行っており、多くの方は大工を本業としているが、一部には、地域の材を活用し家具や器等の挽物を製作される方もいる。木工機械は一通りのものが揃っていたが、近年では製材機は動かす機会がほとんどなく、当初のメンバー以外は使い方を熟知していないとのことであった（写真 中央）。

翌26日は代表の紹介により、当初からの設立メンバーであり、主に木工旋盤を用いて食器を製作されている飯島氏が経営する「マツリカ」（島西部の南風見集落）を訪問し、お話を伺うことができた。店内には、リュウキュウマツやセンダン、テリハボクを用いた大皿が並べられており、いずれも西表島の材が用いられていた。以前は木製のタンブラーやグラス等もおいてあったが、全て販売しており、現在新たに製作中とのことであった（写真 右）。

現在竹富町役場では、森林環境譲与税を活用して地域材の利用を促進することを検討しており、島内の伐採可能なエリアから試行的に数本を切り出し、当該施設で製材した後に木製品を製作することと併せて、製材技術の継承にもつながる取り組みを模索している。県としても竹富町における地域材利用が少量ずつでも継続されていくようこれらの取り組みに協力していきたい。



（報告者：八重山農林水産振興センター 宇地原、比嘉、井口、砂川）